



ミスチル ほかぼんど

【愛地球博、国際赤十字パビリオン】

戦争、地震、津波などの脅威の中、傷つきながらも力強く生きる人々の映像と、訴えかけるような歌とが重なってひたむきなハーモニーを奏でる。



【ギャラリーゾーン】

赤十字の活動や歴史などを紹介するギャラリー空間。
赤十字の歴史を紹介するCGアニメも上映。



【マインドシアター】

ソファに寝そべり天井を見上げる円形シアター。
Mr.Childrenの「タガタメ」にのせて四面スクリーンに世界の人々が映し出される。



【メッセージゾーン】

見終わった人たちがそれぞれの思いをメッセージカードに綴る。桜井くんからのビデオメッセージも上映。

↓ メッセージカードを掲げる由佳ちゃん。



桜井くんの似顔絵入り
メッセージも。→



多くの人たちが時間をかけて一枚のカードに熱いメッセージを残す。75才のおばあちゃんがもっともっと若い人に見てもらいたいと、若い数学教師が次は生徒たちを連れて来たいと、5回も足を運びそのたび涙したというOLもいる。感動した人たちが誰かに感動を伝え、また誰かは誰かに伝え、優しさが広がっていく。

9月の初旬の暑い日でした。由佳ちゃんから写メが届き、国際赤十字館 150 分待ちの立て看板の脇に泣きマネの由佳ちゃんがいました。この暑い中 150 分はきついよね。その数時間後、今度はほんとに「泣いちゃったよー！」の感動メールが！由佳ちゃんも泣いた、じんじんもうっすら涙をためていた。なんてメールが飛び込んできたら、返事は「行くいくいくー！」ってのしかないよね。次の日には新幹線の切符を買って、神さまの配慮のようなさおの夏期休暇に合わせて、名古屋へすつとんで行きました。高浜港駅の改札口で息子君ふたりと手を振って出迎えてくれた由佳ちゃんはなんだかずっと昔からの知り合いのような感じもしました。DGで6年間付き合ってきたんだもんね。愛聴盤も愛読書も書く文章も知ってるんだもんね。

さていよいよ行きたくて行きたくてしかたなかった国際赤十字館です。ギャラリーゾーンに一步入るとシアターからの「タガタメ」がこちらまで届いています。「子供らを被害者にも加害者にもせずこの町で暮らすため僕らは何をすべきだろう」と歌うその歌は映像とのコラボによりいっそう心の中に入り込んでくるようです。世界にはさまざま人々が生き、死に、泣き、悲しみ、喜び、笑っている。わたしたちの手は人を殴ることもできるけれど人を慈しむこともできる。できることなら「僕らは何をすべき」か考え、慈しむ手であれたらいいなと思う。Mr. Children の歌にはいつも伝えることの素晴らしさがあり、伝えられる喜びがある。由佳ちゃんに伝えてもらってよかった。外に出ると由佳ちゃんから「泣いた泣いた？」と質問メールがきてました。なんだかすごく期待されてみたい。たやすく涙は見せないのよ。泣いちゃったよーって由佳ちゃんに言いたかった気もするけどね。でもはるばるきてよかったなあとしみじみ思うよ。もう一度きたいとすつごく思う。

行きたくて行きたくてしかたなかった国際赤十字館だけど、名古屋紀行フルコースのメインディッシュはなんと言っても由佳ちゃんち。国際赤十字館は最後のデザートってところかなあ。

表紙は語る 表紙は語る



パビリオンの傍らに咲くひまわり
後ろを振り向くことがまるで罪のように
けなげにいつも前だけ見ている
夏の強い日差しの中で咲く花は
その日差しに負けまいとするように
鮮やかでひたむきだ

